

特別
~4
5285



門
4
號
5285
卷

昭和二十六年
十月二十九日
購求

子又百集并合早也 建仁元七月進



夏日侍

太上皇仙洞同祓百首應 製和詩

平式先例云云云云 四位下行近衛權少将云云 藤原朝臣云云
由有波云云仍随侍

春二十首

春の心花の心とて 吉野の心かあさるる心はあ
ふれふあさるる心とて 春の心かあさるる心はあ
ふれふあさるる心とて 春の心かあさるる心はあ
ふれふあさるる心とて 春の心かあさるる心はあ

後拾

ささるる心とて 春の心かあさるる心はあ
ふれふあさるる心とて 春の心かあさるる心はあ
ふれふあさるる心とて 春の心かあさるる心はあ
ふれふあさるる心とて 春の心かあさるる心はあ
ふれふあさるる心とて 春の心かあさるる心はあ

後右

新右

花の香い風は四方に吹く
こころを掃く風と交りて
昔此川流のほとけは
今このこころを掃く

夏十曲首

新子よよいばらに白神
仲夏の人々をたのむ
空をわらわす
わらわす
汗流るる
夕ぐれ
まはるる

市よのわらわら
わの川に
神の香と花
久里の中
夏夜を
けり
こころ
そら

秋十曲首

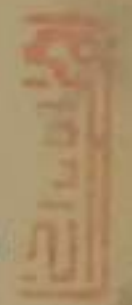
と朝の風は
あふれ
夕ぐれ
夕ぐれ

西風のけしきもかきこひてあはれなるはあはれなる
思ふにやうな心もあはれなるはあはれなる
わがれはあはれなるはあはれなるはあはれなる
とてあはれなるはあはれなるはあはれなる
かあはれなるはあはれなるはあはれなる
はあはれなるはあはれなるはあはれなる
久思はれぬもあはれなるはあはれなる

雑十首

大いなる心もあはれなるはあはれなる
之よりあはれなるはあはれなる
いふにあはれなるはあはれなる
駒のあはれなるはあはれなる
うたはあはれなるはあはれなる
初夕のあはれなるはあはれなる
はあはれなるはあはれなるはあはれなる
年ものあはれなるはあはれなる
いふにあはれなるはあはれなる
わがれはあはれなるはあはれなる

拓月庵正徹



定家卿百首

書

芳翰無疑者也

申
七月下旬

古筆子行



